

令和4年度(第18回)若手農林水産研究者表彰受賞者の業績概要

【農林水産技術会議会長賞】

受賞者	業績名	所属
こいで じゅんじ 小出 淳司	小規模農家のための汎用性の高い農業経営計画モデルの構築	(国研)国際農林水産業研究センター 社会科学領域
<p>アフリカを含む幅広い地域の小規模農家の意思決定支援に活用できる農業経営計画モデルを構築し、数多くの小規模農家の経営改善策の策定、所得向上を実現した。また、様々な技術開発事業において同モデルを活用し、農家の所得創出力や気候変動適応力を最大限に引き出す最適技術導入計画を策定した。</p>		
こざかい ちなつ 小坂井 千夏	鳥獣害の発生メカニズムの解明と被害防止技術の開発	(国研)農業・食品産業技術総合研究機構 畜産研究部門
<p>ツキノワグマの出没について、冬眠に備えるための行動がオスに加え本来定着性の高いメスの出没も促すことや、アライグマ等による収穫残さの摂食が農業被害の激甚化につながる構図を解明し、社会実装に向け現場で省力的に導入できる被害防止技術を開発した。より迅速な被害の予測・把握手法の開発へと展開させることで、先手の鳥獣害対策の実現が期待できる。</p>		
さはし げんき 佐橋 玄記	多様な野生魚を守って活用する： サケ資源回復方策の開発	(国研)水産研究・教育機構 水産資源研究所 さけます部門 資源生態部 資源管理グループ
<p>サケ科魚類をモデル生物として、1)同所的に棲む2種の野生魚に、回遊コストのばらつきに応じて個体群間に成熟サイズの多様性が生じること、2)ふ化放流が野生魚とは異なる魚を生み出し、資源を増やしていない場合があること、3)ふ化放流に用いる野生魚の割合が高いほど、ふ化放流で生まれた子の野外における生存率が高いことを明らかにした。</p> <p>これらの知見は、水産業の持続的な発展のために、多様な野生魚を保全することの重要性を示すものであり、資源管理方策の刷新につながることを期待される。</p>		

受賞者	業績名	所属
つるさき 鶴崎 ゆき 幸	低コスト再造林に向けた下刈り省力化に関する研究	福岡県農林業総合試験場 資源活用研究センター 森林林業部
<p>「下刈りの低コスト化・省力化」は再造林を進める中で喫緊の課題である。これを解決するために様々な植生タイプの林地を調査し、下刈り要否の判断基準を競合植生（雑草木）の種類や成長量という新たな視点に着目、それぞれの現場の条件に適用可能な基準を明らかにした。</p> <p>下刈りの省力化が可能となることで、夏場の炎天下で厳しい作業をしている林業従事者の負担軽減や労働環境の改善につながることも期待される。</p>		
にしお 西尾 そうご 聡悟	ゲノム情報を用いた果樹育種の高度化と新品種育成	(国研) 農業・食品産業技術総合研究機構 果樹茶業研究部門
<p>国内外の果樹遺伝資源を導入・収集し、有用 DNA マーカー情報の付加による遺伝資源の育種利用価値の向上を行うとともに、遺伝資源の分子遺伝学的な分類を行い、遺伝資源を効率的に育種利用するための遺伝情報を整備した。ゲノム解析技術を駆使し、ニホンナシの糖組成と収穫期等の果実品質に関わる DNA マーカーとニホンナシの「ぼろたん」の渋皮剥皮性の DNA マーカーを開発した。これらの研究成果を活用してこれまでにニホンナシ「甘太」、「はつまる」、ニホンナシ「ぼろすけ」等、8品種を育成した。</p>		